舞子公園の松林について

舞子公園と松林

明治時代の舞子公園

根上がり松再生事業

中央地区の老松

　現在の舞子公園一帯は、古来舞子浜といわれており、白砂青松と淡路島を望める有効明媚な景色から、天下の名勝といわれてきました。江戸時代、「東海道五拾三次」を描いた安藤広重（1797～1858）は「播磨舞子の浜」（口絵）で舞子浜の美しい海岸風景を描いています。また、志賀直哉（1883～1971）は「暗夜行路」のなかで、「塩屋、舞子の海岸は美しかった。夕ばえを映した夕なぎの海に・・」と舞子浜の様子を描いています。

　この舞子浜にはかつて、砂浜が強い風や波で削られ、根が地上に現れた「根上がり松」を多くみることができ、観光名所としても有名でした。この「根上がり松」を再生しようという「根上りの松再生事業」が 2005 年から始まりました。この事業は、旧武藤山治邸の東側にある盛り土に松を植樹し、徐々に土を取り除いて根上がりの状態を作っていくもので、100 年、200 年先に実を結ぶ地道なプロジェクトです。

　現在の舞子公園には、およそ 1,000 本の松がありますが、そのほとんどの松は、昭和 40 年代に植栽されたものです。この松林の中で、ひときわ幹回りの大きい 3 本の大木は、樹齢も長く、老松（おいまつ）と呼ばれます。

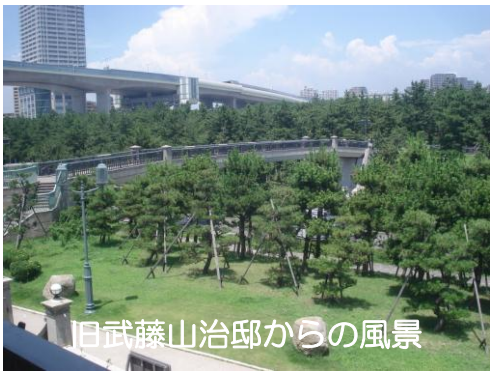
松ぼっくり

　松ぼっくりの赤ちゃんは毎年春に誕生し、大きく生長し茶色くなって地面に落ちるのは翌年の秋です。つまり松ぼっくりができるのに、1 年半かかるのです。

　右の写真は 5 月に撮影した松で、小さな赤い実のようなものが 2 個見えますが、これが今年誕生した松ぼっくりの赤ちゃんです。その下に見える大きな若い松ぼっくりが 2 年目のもので、半年後には松かさが開き、茶色くなって地面に落下します。

　松は英語で”Pine Tree”と呼ばれますが、これは松ぼっくりがパイナップルの実の形に、似ていることに由来します。

松林の管理


旧武藤山治邸からの風景

舞子公園は、公園の種別としては「風致公園」に指定されています。これは、古来からのかけがえのない財産である松林の風景を守る必要があることを示しています。このことから、松林の大敵である松くい虫による被害から松林を守る目的で、土壌改良剤を冬に与えています。また、松はやせ地を好むため、松の落ち葉を定期的に掃除し、土壌が肥えないようにしています。

一方、南地区にある仕立て松は、冬に剪定を行い、樹形を整えています。

仕立て松

松の種類

舞子公園の松林は、クロマツの林です。クロマツは樹皮が黒っぽく、主に海岸近くに生えています。天橋立や慶野松原（淡路）などの白砂青松で有名な松林はクロマツ林となっています。また、塩害に強いことから、防潮林にも利用されてきており、盆栽に使われることもあります。

クロマツの樹皮

アカマツの樹皮

また、内陸部の山地にある松林は多くが、アカマツの林で、名前のとおりアカマツは樹皮が赤茶っぽく、クロマツに比較して葉がやや柔らかいのが特徴です。

ところで、旧木下家住宅がある舞子公園の西地区には、樹皮などがクロマツとアカマツの両方の特徴をもったアイグロマツと推定されるマツが自生しています。

クロマツもアカマツも、日本と韓国などが原産のマツです。クロマツの英語名は、“Japanese Black Pine”、アカマツは“Japanese Red Pine”と呼ばれます。

テーダマツの松ぼっくり

明石公園には、テーダマツというアメリカ合衆国南部が原産のマツが、県立図書館前に植えられています。クロマツやアカマツとことなり、松ぼっくりがひときわ大きくて長いのが特徴です。

【発行】平成 24 年 6 月 15 日
公益財団法人　兵庫県園芸・公園協会　舞子公園管理事務所